

# 平成 23 年度第 2 回陸上掘削部会執行部会

日時:2011 年 11 月 11 日(金)13:30~17:00

場所:JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席者:

執行部:佐藤比呂志(部会長/東京大学地震研究所)、井龍康文(部会長補佐/名古屋大学)、  
小村健太郎(防災科学技術研究所)、小泉尚嗣(産業技術総合研究所)、高嶋礼詩(東北大学)、  
中田節也(東京大学地震研究所)、長沼 毅(広島大学)、廣野哲朗(大阪大学)、  
町山栄章(海洋研究開発機構)

オブザーバー:村岡洋文(弘前大学)、東 垣、伊藤久男(海洋研究開発機構)

事務局:菊田宏之、梅津慶太(海洋研究開発機構)

欠席者:岩森 光(SAG 委員/東京工業大学)、浦辺徹郎(東京大学)、小笠原 宏(立命館大学)、  
功刀 卓(防災科学技術研究所)、MORI, James Jiro(SAG 委員/京都大学防災研究所)、山田泰  
広(京都大学)、  
山元孝広(産業技術総合研究所)

## 議事次第(案)

1. 前回(110617)議事録確認【事務局】.....資料 1
2. ICDP-GFZ との契約更新について【事務局】
3. ICDP 関連 WS 等への派遣報告(WS、トレーニングコース).....資料 2-1、2-2
4. コアスクール岩石コア記載技術コース報告と今後の予定.....資料 3-1、3-2
5. 今後の ICDP 活動に向けての取り組みについて
  - 1) 陸上掘削特集号・WS【井龍】.....資料 4
  - 2) 2012/1/15 プロポーザル提出へ切に向けての予定と部会の取り組み
    - ・ 阿蘇【中田】
    - ・ Rapid Response Drilling【Mori】.....資料 5-1
    - ・ 地熱【村岡】.....資料 5-2
    - ・ その他
  - 3) ICDP 関連プロジェクト活動報告
    - ・ Alpine Fault【佐藤、廣野】
    - ・ COREF【井龍】
    - ・ GONAF【伊藤】.....資料 5-3
    - ・ その他
6. J-DESC 会員提案型活動経費執行報告.....資料 6
7. 下半期の活動について.....資料 7-1、7-2
8. 陸上掘削部会の次期執行部体制について.....資料 8
9. 次回会議日程

## 配布資料

資料 1	前回国議(110617)議事録(案)	資料 5-1	Japan Trench Fast Drilling Project –Rapid Response Drilling
資料 2-1	Deep Hydrogeology Workshop@Uppsala, Sweden 報告(加納靖之氏・京都大学)	資料 5-2	地熱掘削に関する ICDP 提案の計画概要
資料 2-2	ICDP トレーニングコース 2011 参加報告	資料 5-3	GONAF の近況
資料 3-1	コアスクール報告(GSJ ニュースレターより)	資料 6	平成 23 年度会員提案型活動経費一覧
資料 3-2	岩石コア記載技術コース(深成岩記載・構造地質)企画書	資料 7-1	平成 23 年度陸上掘削部会活動方針
資料 4	地学雑誌特集号の概要	資料 7-2	平成 23 年度 J-DESC 予算
		資料 8	執行部ローテーション表

## 平成 23 年度第 2 回陸上掘削部会執行部会合意項目抜粋

合意項目 (111111-01): 期 SAG Chair の推薦については部会長に一任する。また、次期 SAG 委員の適任者を選出する。

合意項目 (111111-02): ワークショップのレポートは J-DESC ウェブに掲載できるような形に再度作成してもらおう。加納氏には井龍部会長補佐から願う。

合意項目 (111111-03): 来年度以降のトレーニングコースには、ICDP のプロジェクトに深く関わりそうな方を推薦するとともに、応募者の推薦書をそのような視点でチェックするよう心がける。

合意項目 (111111-04): 提案のあった岩石コア記載技術コース(深成岩記載・構造地質)について開催を承認する。

合意項目 (111111-05): インパクトクレーター (Chicxulub) に関する内容を可能であれば入れる。井龍部会長補佐より適任者にコンタクトをとる。

合意項目 (111111-06): ICDP の Rapid Response Drilling プロジェクトについて Mori 氏に状況を聞く。

合意項目 (111111-07): 地熱関連のプロポーザル準備のための費用(打ち合わせ旅費など)を陸上掘削部会において負担する。

## 議事録

### 1. 前回(110617)議事録確認.....資料 1

会議終了までに特に修正意見がなく承認された。

### 2. ICDP-GFZ との契約更新について【事務局】

表記の件について事務局より報告がなされた。

契約の最終ドラフトが GFZ より来ている状況である。概要は以下の通り。

- ・今後の 5 年間(2016 年 10 月まで)については、カテゴリー A を維持する。SAG2 名(1 名は議長になる権利を持つ)、EC1 名、AOG1 名。
- ・財政状況が戻れば分担金を元に戻すという条件つきで一時的に最大 50% までの減額が認められる。
- ・ICDP を推進するためには欧州、米国、アジアでのバランスが重要であるとの認識が GFZ にあり、特に日本が ICDP のメンバーとして参加していることに意義を見出しているようである。

### SAG の Chair/Co-chair について

- ・日本から SAG の Chair または Co-chair のノミネーションやサポート体制について検討する必要がある。
- ・これは来年の 3 月の SAG には決めておく必要があり、そのためには AGU 頃には国際にネゴシエーションするべき。
- ・現在 SAG 委員は Mori 氏と岩森氏である。ICDP への推薦など国際的な手続きについては AOG 委員から行う。

合意項目 (111111-01): 次期 SAG Chair の推薦については部会長に一任する。また、次期 SAG 委員の適任者を選出する。

### 今後 5 年間の ICDP の国内科学推進について

- ・予算がつきそうな地熱を軸に推進していく。
- ・その他、今後関わりができそうなプロジェクトとしては以下のようなものがある。
  - ・ベトナム地下水ヒ素
  - ・コロラドプラトー
  - ・Chicxulub インパクトクレーター (IODP とのコラボ)
- ・掘削計画が承認された際に、EC 東委員からほぼリアルタイムな情報を流してもらうことは、日本から国外の掘削計画に参加する際に有用である。

3. ICDP 関連 WS 等への派遣報告 (WS、トレーニングコース) .....資料 2-1、2-2  
表記の件について資料 2-1、2-2 に基づき、井龍部会長補佐より報告がなされた。

#### Deep Hydrogeology WS

- ・ スウェーデンのウプサラにおいて 9 月に実施された。

**合意項目 (111111-02):** ワークショップのレポートは J-DESC ウェブに掲載できるような形に再度作成してもらおう。  
加納氏には井龍部会長補佐から願います。

#### トレーニングコース報告

- ・ 日本から 2 名推薦したが、1 名のみの参加が認められた。
- ・ ICDP トレーニングコースには毎年定員の 3 倍ほどの申し込みがあり、選考の基準としては、応募者が近い将来に ICDP に深く関わってきそうかどうか重要であるとの回答があった。
- ・ 従って、来年以降はそのような人材を選ぶとともに、応募書類もそのようなことを意識して作るべきである。

**合意項目 (111111-03):** 来年度以降のトレーニングコースには、ICDP のプロジェクトに深く関わりそうな方を推薦するとともに、応募者の推薦書をそのような視点でチェックするよう心がける。

4. コアスクール岩石コア記載技術コース報告と今後の予定 .....資料 3-1、3-2  
佐藤部会長より資料 3-1、3-2 に基づき説明がなされた。

#### 報告

- ・ 岩石コア記載技術コースを 8 月に産総研にて実施した。
- ・ テーマは火山岩。
- ・ 参加者は 15 名。

#### 深成岩記載・構造地質

- ・ 産総研の大坪氏が世話人となる。
- ・ 3 月下旬の開催を予定。
- ・ 共通経費のコアスクール開催費から支出する。

**合意項目 (111111-04):** 提案のあった岩石コア記載技術コース(深成岩記載・構造地質)について開催を承認する。

#### 5. 今後の ICDP 活動に向けての取り組みについて

1) 陸上掘削特集号・WS【井龍】 .....資料 4  
井龍部会長補佐より資料 4 に基づき説明がなされた。

- ・ 地学雑誌に陸上掘削科学に関する特集号を組むことで話を進めてきた。
- ・ 広い分野にわたって 10 の内容から構成される。
- ・ 現在は原稿の投稿待ちの状況。原稿の締め切りは 12 月末。

**合意項目 (111111-05):** インパクトクレーター (Chicxulub) に関する内容を可能であれば入れる。井龍部会長補佐より適任者にコンタクトをとる。

2) 2012/1/15 プロポーザル提出切に向けての予定と部会の取り組み

- ・ 阿蘇  
中田氏より資料に基づき報告がなされた。
  - ・ 具体的な進展はないが調査は行っている。

- ・カルデラ掘削は他にも提案されており、すべての目的がほとんど共通しているため、提案ごとにユニークさを示すことが求められている。

・ Rapid Response Drilling .....資料 5-1

廣野氏より資料 5-1 に基づき報告がなされた。

- ・東北地方太平洋沖地震のプレート境界を掘りぬく計画を IODP で実施する。
- ・水深 6,990m で 740m の掘削をする。

**合意項目 (11111-06):ICDP の Rapid Response Drilling プロジェクトについて Mori 氏に状況を聞く。**

・ 地熱.....資料 5-2

- ・塑性帯まで掘削し、注水による孤立人工断層系を造成し、新しい地熱発電方式を開発する計画。
- ・1/15 提出を目標として ICDP ワークショッププロポーザルを作成する。
- ・PI は国内と海外のメンバーを半々程度にするのがよい。
- ・Biology などの観点からのサイエンスを提案に入れると幅が広がる。
- ・ICDP からの Funding は通常であれば 30%程度になることもあるが、現在の ICDP の財政状況を考えると 15~20%を見て計画を立てるのが妥当だろう。
- ・データやサンプルの外部への公開や、ICDP のアウトリーチ (特にアジア) の展開を考えていただくにより評価が高くなるだろう。
- ・以上のことについては Full proposal を提出する際に明確にする必要があるが、Workshop proposal の時点でもある程度スコープを持っていることは

**合意項目 (11111-07):地熱関連のプロポーザル準備のための費用 (打ち合わせ旅費など) を陸上掘削部会において負担する。**

・ その他

3) ICDP 関連プロジェクト活動報告

・ Alpine Fault【佐藤、廣野】

廣野委員より報告がなされた。

- ・11 月下旬に開催されるワークショップに 2 名を派遣することを決めた (メール承認済み)。
- ・パイロットホールのデータの分析を 4~5 名のチームで進めている。
- ・ICDP の掘削 (約 2km) に向けてもチームで取り組んでいく予定。

・ COREF【井龍】

井龍部会長補佐より報告がなされた。

- ・予算増額のためのリバイズをしたプロポーザルと実施計画資料を送る準備を行っている。
- ・お金があればいつでも掘削できる状態。

・ GONAF【伊藤】 .....資料 5-3

- ・トルコ側の新しいパートナーが見つかり合意がなされた。2012 年春に掘削を開始する予定。
- ・孔内機器のスペック当を早急に決定する見込み。
- ・AGU 期間中にミーティングを行うことになっている。
- ・最近トルコで起こった地震の影響は特にない。

・ その他

上町断層の計画を進めつつあるとの報告が廣野委員より報告がなされた。

## 6. J-DESC 会員提案型活動経費執行報告 .....資料 6

事務局より資料 6 に基づき報告がなされた。

- ・ 今年度これまでの申請・採択数はともに 5 件。
- ・ 1 件当たり 20~30 万円の申請で、合計 110 万円を採択している。
- ・ 今年度の予算は 120 万円。

## 7. 下半期の活動について .....資料 7-1、7-2

事務局および佐藤部会長、井龍部会長補佐より資料 7-1、7-2 に基づき説明がなされた。

以下、資料 7-1 の項目より。

- (1) 今後日本発 ICDP プロポーザル発掘のためのワークショップ開催を進める。地学雑誌特集号に関連。
- (2) コアスクールは、1 回目を実施済み。2 回目を計画中であり、十分に達成できる。
- (3) ICDP 国際ワークショップへは Alpine Fault のワークショップに派遣しているものの、もう少しワークショップ開催の情報収集が必要。
- (4) 海外 ICDP 計画への参加支援についても情報収集が必要である。
- (5) 国内における陸上科学掘削ワークショップの開催と支援については(1)と同様。
- (6) ICDP 以外の国際共同研究計画として行われている陸上掘削への支援については Deep Hydrogeology Workshop への派遣は行っているものの、制度化し宣伝する必要がある。報告書を J-DESC ウェブに掲載することで、公益性を
- (7) 陸上掘削広報物の配布促進及び制作については、ウェブページを充実させる。
- (8) JpGU のセッションおよびタウンホールミーティングについては達成済み。
- (9) EGU への執行部委員の参加については達成済み。

### 予算執行状況

- ・ シンポジウムへの旅費等は 3 名を派遣している(2 名は予定)ため、かなり執行している。
- ・ ICDP プロポーザル作成支援については地熱関連のワークショッププロポーザルの英文校閲などで使ってもらうことが可能。
- ・ ICDP 計画に関するワークショップや打ち合わせへの出張にはどんどん支援していく。

## 8. 陸上掘削部会の次期執行部体制について .....資料 8

- ・ 本件については 2 月をめどに選出を行う。
- ・ 次期執行部の選出は次期 SAG 委員(ないしは SAG 経験者)で国内もリードできる人材を選出するのが良いだろう。
- ・ 国内外の陸上掘削プロジェクトの動向を把握した上で選出するのが適切である。

## 9. 次回会議日程

2 月に開催予定。メールにて調整する。